

ポートフォリオ

～診療と研修を向上させるツール～

自治医科大学地域医療学センター地域連携型医学教育・研修部門
／新小山市民病院総合診療科・地域医療教育センター

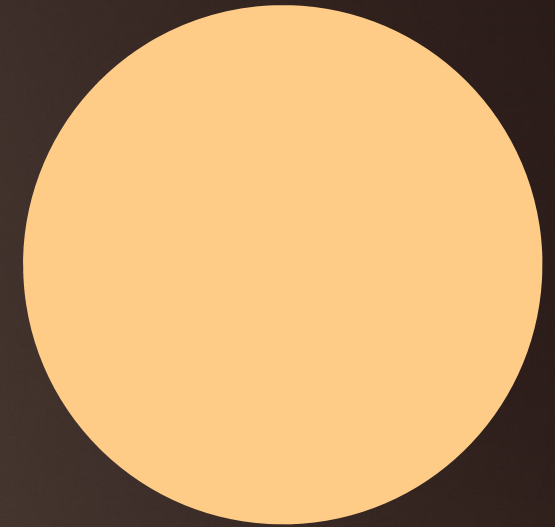
三 瀬 順 一

2019年6月15日(土)自治医科大学後期研修プログラム指導医研修会

家庭医・総合診療医の 学習の評価

- ▶ Mini-CEX 短縮版臨床評価表
- ▶ CbD Case-based Discussion
- ▶ 360度評価 多職種から
- ▶ **ポートフォリオ**
- ▶ 経験症例のレポート

- ▶ ローターの実績
- ▶ 学会発表の実績 『研修手帳』
- ▶ 研究参加の実績



受動的な学習 (学生～臨床研修)

- ▶ 何を学ぶか、教育指導する側が提示
- ▶ どう学ぶかも //
- ▶ 必要性がわからないことも前もって学ぶ
コア・カリキュラム、臨床研修目標
etc
- ▶ 到達度が評価される = 総括的評価が必須
- ▶ 形成的評価もある

能動的学習 (専門研修～生涯学習)

- ▶ 何を学ぶか、学習者が気づき、選ぶ
- ▶ どう学ぶかも //
- ▶ 責任ある行動のために必要性が明確
受け持ち患者の診断・治療選択
リスクの評価と予防、健康増進 etc
- ▶ 自ずと形成的評価が行われる (はず)
- ▶ 時に総括的評価も

日本プライマリ・ケア連合学会 の家庭医療専門医試験では・・・

事前に

- ▶ 各分野の研修
- ▶ **ポートフォリオ**
- ▶ 他の学会は病歴要約
(レポート) ですね。

当日

- ▶ 記述筆記試験 1日目
- ▶ 実技試験 2日目

総合診療専門医
試験でもこれを
ほぼ踏襲する？

レポート vs ポートフォリオ

レポート

- ▶ 症例ごとに書く
- ▶ 情報の取捨選択が
Disease Oriented
- ▶ 後で書く
- ▶ 完成形(終わり)がある
- ▶ 定式がある
- ▶ 総括的評価に適する

ポートフォリオ

- ▶ テーマごとに作る
- ▶ 情報の取捨選択が
Patient Oriented
または非選択的
- ▶ 同時進行で書く
- ▶ 常に新しくできる
- ▶ (本来) 非定型・自由
- ▶ 形成的評価に適する

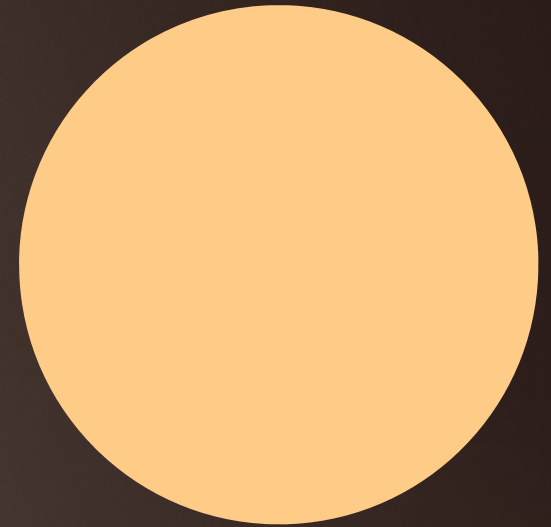
ポートフォリオの最大の特徴

- ▶ 自己省察（振り返り）
- ▶ 事後にいろいろ後悔しつつ「反省」
 - 省察の同時化
 - = 次に生かす「反省」より
 - 今、すぐに生かせる省察を
- ▶ 反省の方向性や深さは日々変化する
 - その変化自体が表われているのがいい

省察する実践家 The Reflective Practitioner

- ▶ ドナルド・ショーン
- ▶ 『専門家の知恵』
- ▶ ゆみる出版
- ▶ 2001年刊

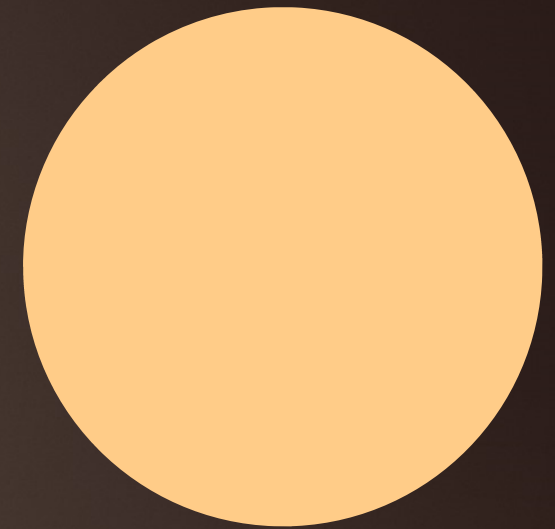
※副題「反省的実践家は
行為しながら考える」



On と In

▶ Reflection **ON** action
自らの行為についての省察

▶ Reflection **IN** action
自らの行為をしながらの省察



省みるとは？

▶ 論語から

吾日三省吾身。

為人謀而不忠乎。

與朋友交而不信乎。

傳不習乎。

In Action

訳：

私は常に自らのあり方を省みている。

人の為に心を動かされて、忠ならざる事はなかったであろうか。

志を同じくする友なるに、意に従うばかりで信ならざる事はなかったであろうか。*

己の身にもなっておらぬ事を妄りに発して、人を惑わせてはおらぬであろうか、と。

ポートフォリオのテーマ (日本プライマリ・ケア連合学会)

- ▶ bio-psycho-social
- ▶ 家族カンファ
- ▶ 複数の健康問題
- ▶ 行動変容・患者教育
- ▶ 地域ヘルスプロモーション
- ▶ EBM/コミュニケーション
- ▶ プロフェッショナリズム
- ▶ 組織・制度・運営
- ▶ 教育
- ▶ 研究
- ▶ 個人への健康増進
- ▶ 幼少児・思春期
- ▶ 高齢者のケア
- ▶ 終末期のケア
- ▶ 女性（男性）の健康問題
- ▶ リハビリテーション
- ▶ メンタルヘルス
- ▶ 救急医療

それぞれ作りやすい場面がある



Seedsの拾い方 1

▶ 候補事例の発掘

- ・ Case Reportから
- ・ 紹介状・返信・主治医意見書などから
- ・ SEA:Significant Event Analysisから

事例、患者ID、氏名イニシアル、年齢
住所などの基本情報をメモする。

Seedsの拾い方 2

- ▶ メモをもとに **下書き** してみると・・・
いろいろ反省点に気がつく = 後悔する
もっと早い時点で気がつかなくては！
 - ▶ もっと早く、**反省しながら**書けばいいじゃないか
- 
- ▶ これがポートフォリオ！
ポートフォリオを作ることそのものが学習。
- 

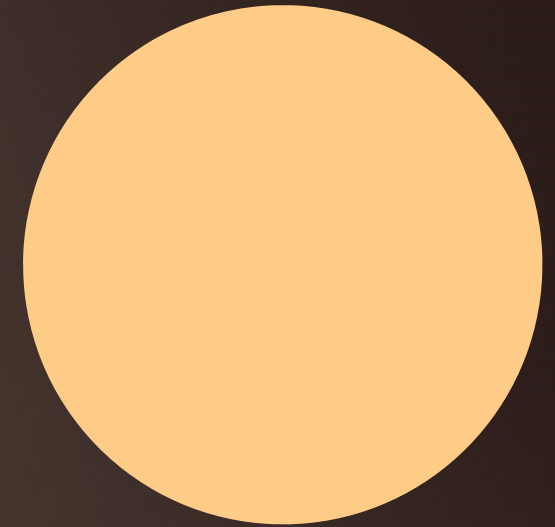
寝かせる

- ▶ ときどき自分で添削し、また、寝かせておく
- ▶ ずっと後から勉強して、試験前に解釈や思いを付け足すのは反則。
- ▶ その時、何がわかっていて（いなくて）、どう感じ、どう行動したか、すべきだったかが重要。



ショーケースポートフォリオ

- ▶ 素材
- ▶ 生ポートフォリオ
- ▶ ショーケースポートフォリオ
(ポスター、ppt)
- ▶ ショーケースポートフォリオ
(提出用書式)



指導医の役割

- ▶ 気づかせる・・・勉強させる
- ▶ 振り返りの場を設ける その時々
- ▶ 言語化する 言い換えてみせる
- ▶ 記録する メールやメモで預かる
- ▶ 寝かせる
- ▶ 時々、読み返す・・・また勉強させる
- ▶ 清書して発表させる



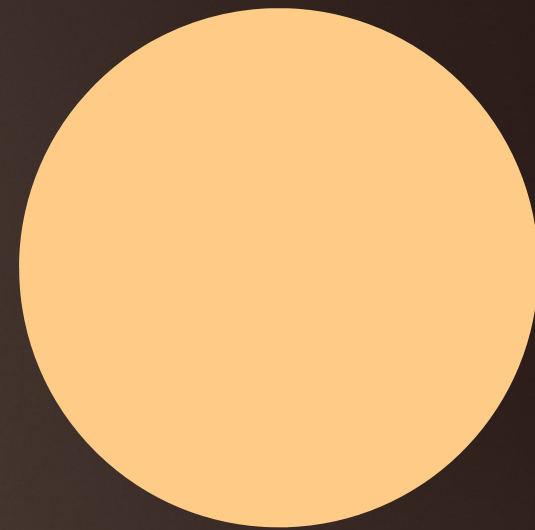
指導医の役割

気づきを促す

- ▶ 研修医自身が
- ▶ どのローテーションでも
- ▶ どの場面でも（外来、入院、救急、在宅、保健、自己学習、職場、私生活・・・）
- ▶ テーマを頭の片隅に
- ▶ 指導医とのやりとりの中で
「それ、ポートフォリオになるんじゃないか？」

振り返る

- ▶ 一日のおわり 今日のカルテ
- ▶ 指導医に報告する時
- ▶ 外来患者を帰す時
- ▶ 回診でのプレゼンテーションの時
- ▶ 退院させる時
- ▶ 同じような経験を比較する時



互いに言語化する

- ▶ 指導医とのやりとりで
- ▶ 同僚とのやりとりで
- ▶ 見学・実習に来ている学生とのやりとりで

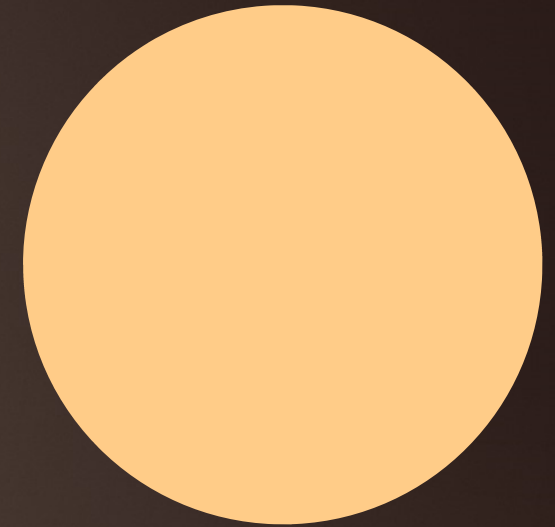
- ▶ なかなか一人で考えていても言語化できない
指導医も

- ▶ 家庭医療研修に用いられる用語 . . . Next



家庭医療研修に特徴的な用語

- ▶ Bio-psycho-social model
- ▶ 解釈モデル
- ▶ Narrative-based medicine
- ▶ Evidence-based clinical practice (EBM)
- ▶ 行動変容
- ▶ 家族志向のプライマリ・ケア
- ▶ Patient centered clinical method
患者中心の医療の方法
- ▶ 地域・コミュニティ志向 地域診断



記録する

- ▶ メモ用紙
- ▶ 手帳
- ▶ デスクトップ
- ▶ メール

いわゆる生ポートフォリオ

後でサマリー等から拾い出すのは事実上困難
テーマごとに書く

読み返す また勉強する

- ▶あるテーマについて、貯まったメモ・資料を読み返す。
- ▶当時と今とを比較する
= 自分は成長したか？
- ▶足りないこと
(知識、考え方) は何か？

↓
勉強する

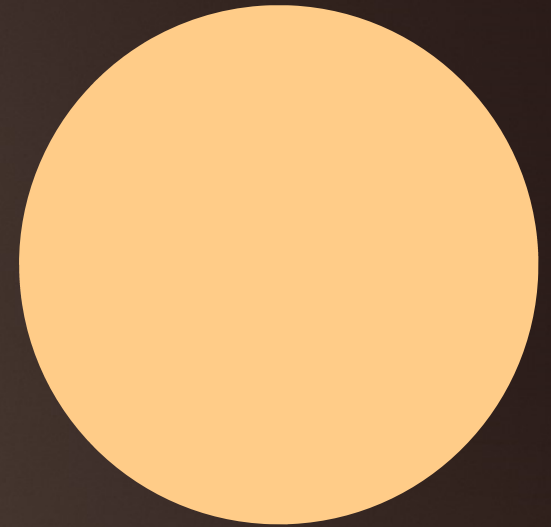


1910岡崎雪聲 作品から発展

清書する 発表する 批判を受ける

- ▶ 生ポートフォリオを元に
- ▶ ショーケース・ポートフォリオを作る
- ▶ 試験申請用のフォーマットにまとめる

- ▶ 身近なところで発表して批判を受ける
- ▶ 公に発表する



ポートフォリオを通じて思う

- ▶ 普段から記録する習慣を！
- ▶ 他者に通じる語句、言い回しを！ 推敲！
- ▶ 主語を一貫させたプレゼンテーションを！
- ▶ 視座を多彩に！
 - ▶ 自分
 - ▶ 患者
 - ▶ 家族、地域、行政、文化、経済、地域
- ▶ その時の自分と今の自分を表現せよ！
- ▶ 試験や資格取得に関係なくポートフォリオを書く習慣を！

おわりに

- ▶ この領域のすべてを経験し、指導し、実践するようにすることが求められている。
- ▶ 各テーマは、繰り返し遭遇し、取り組むべき問題として想定されている。
- ▶ 繰り返し経験するたびに向上し、後のほうがより高いレベルの実践になっていなければならない。最後のが発表できる。
- ▶ 指導医と専攻医は、これらを踏まえて密接なコミュニケーションをはかっておく必要がある。Seedsを拾いあげる。
- ▶ 他人のポートフォリオを見て、類似経験あり！と思ったら、より高いレベルのポートフォリオが書ける可能性がある。